

第52回 神無一族の氾濫

担当 神無七郎

☆今回の「氾濫」のお題は

「ルールの回避」。ルール独

自の着手を防ぐ狙いを含む
作品の特集です。なお今回

も「ばか」を「協力」、「ば
か自殺」を「協力自玉」と

表記しています。

①協力詰 227手

神無七郎

- 34 飛、25 玉、24 飛、15 玉
- 14 飛、25 玉、24 飛、35 玉
- 「34 飛、25 玉、35 飛、14 玉、
34 飛、24 桂、同飛、15 玉、
14 飛、25 玉、24 飛、35 玉」
(ⅡA)、47 桂、同歩成、
A、44 銀、46 玉、
58 桂、同金、55 銀、35 玉

	9	8	7	6	5	4	3	2	1
一									
二							王	香	皇
三								飛	
四				銀					
五				金	銀	歩	王		歩
六					銀	歩	桂	歩	科
七									科
八				皇	皇		歩		
九				銀	桂		香		

持駒 なし

- A、44 銀、46 玉、
- 55 銀、57 玉、69 桂、同龍
- 66 銀、46 玉、55 銀、35 玉
- A、44 銀、46 玉、
- 55 銀、57 玉、49 桂、同龍
- 66 銀、46 玉、55 銀、35 玉
- A、44 銀、46 玉、
- 55 銀、57 玉、69 桂、同金
- 66 銀、46 玉、55 銀、35 玉
- A、44 銀、46 玉、
- 58 桂、同と、55 銀、35 玉、
- A、47 桂、同龍
- A、44 銀、46 玉、

55 銀、57 玉、49 桂、同と、

66 銀、46 玉、55 銀、35 玉、

A、44 銀、46 玉、

58 桂、同龍、55 銀、35 玉、

A、47 桂、同馬、

A、44 銀、46 玉、

55 銀、同龍、58 桂、35 玉、

34 飛、25 玉、35 飛、14 玉、

34 飛、24 銀、同飛、15 玉、

14 飛、25 玉、24 飛、35 玉、

34 飛、25 玉、35 飛、14 玉、

15 銀迄 227手。

中澤宣幸—遠くから竜を誘導し

て逆王手を防ぐ。

はやし—龍の入替えパズル。角

道を止めて解決。

☆右辺で入手した桂で局面をほ

ぐす作品。最終的な目標は77

角の利きの遮断です。鍵は遙

か遠くの78龍。

福原徹彦—楽しく解ける繰り返

し趣向。49〜47〜58と龍を

遠回りさせるのが面白い。

☆「55銀、同龍」を実現できれ

ば成功ですが、邪魔な駒が沢

山あるので、龍が55に辿り着

くまで、障害物の撤去と龍の

迂回が必要です。

藤沢英紀—倉庫番の趣。

西村恒雄—倉庫番のように金・

と金・馬・龍を移動させ、龍

で銀を入手する。

☆倉庫番はシンプルで奥深い名

作パズルゲーム。複数の解答

者にこれを連想して貰えたの

は光栄です。

②Isardam 協力詰 9手

神無太郎

	3	2	1
一			
二		歩	
三			
四			
五			
六			
七			
八			王
九			

持駒 桂桂桂香

- 19 香、14 香、16 桂、27 玉、

39 桂、16 玉、28 桂、15 玉、27 桂迄 9 手。

【Isardam】同種の敵駒の利きに入る手を禁止する。玉を取ると同種の敵駒の利きに入る手は王手とならない。

岩本修—23 歩が最後 23 桂を打たせないことに気付いて、後は逆算で 2 手目と 3 手目の打ち場所を考えて解決。

☆ポツンと置かれた 23 歩を利用して、桂の王手に対する桂の受けを回避する作品。ここから芋づる式に詰上りが 15 玉であり、2 手目が退路を塞ぐ 14 香であることが導き出されます。

占魚亭—16 桂が好手。

☆3 手目 16 桂は限定打。15 桂だと 6 手目から 26 玉、38 桂と進み、最終手に対し 16 玉で不詰です。23 歩を 24 歩にした 7

手詰でも同様の手順を実現できますが、玉の動きが曲線的な本図の方が味わい深いと思います。

宮田敦史—この手順の 6、8 手目は、目の見えない殺人者と歩くような感じで面白いですね。

☆Isardam の性質により、2 つの香に挟まれた狭い回廊が玉にとつての安全地帯になります。横に動けない玉を桂二枚で詰める奇妙な感覚は Isardam の醍醐味ですね。

③協力自玉スタイルメイト 25 手 (受先) 上谷直希

29 玉、99 飛、18 玉、19 飛、同桂成、98 飛、78 飛、41 香成、17 玉、97 飛、16 玉、96 飛、15 玉、95 飛、14 玉、94 飛、

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
	王	角							と	糸
	歩									香
										香
						香				桂
										桂
	飛									角
	飛									歩
										王

持駒 なし

13 玉、93 飛成、12 玉、82 龍、21 玉、31 杏、同玉、71 龍、同飛成迄 25 手。

【協力自玉スタイルメイト】先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイト (王手は掛かっているが合法手のない状態) にする。

【受先】受方から指し始める

藤沢英紀—81 角を残す最終図への到達まで随分時間がかかった。初手が盤上唯一の一手パス。

☆本作の主題は着手の回避。「受先」で与えられた一手は邪魔駒ならぬ邪魔手番。これがなければ 24 手でスタイルメイトにできます。

駒井信久—広い盤面のどこに打つても邪魔になるといいう、驚きの構図。

真丁—誇張でなく全空間使用でまさかの初手!

☆初手 29 玉がパスと等価な唯一の着手。様々な手が考えられるだけに驚愕の一手です。これが分かれば後は「攻先」と同じ。71 龍を発生させて 81 角をピン止めすれば、81 角と 91 玉を同時に封じることができます。

宮田敦史—玉方の龍が 71 に来る最終形は浮かんでいたが、この初手はあまりに意外。11 歩は初手 12 歩と取るしか使

い道がないと思ったが初手11に駒を打つ手を消していると
は。

☆初手12歩や71金は特に強力な紛れ。手数不足でなく、手数過多に苦勞する経験は詰将棋では貴重です。

④Andernach協力詰 33手
神無七郎

			皇						
		王	皇	科	皇				
				皇					
			桂	歩					
			銀	皇					

持駒 飛飛

- 19 飛、18 金、17 飛、同金転
- 27 金転、18 金、17 香、同金転
- 16 金、同角生転、25 角転、18 金
- 17 香、同金転、16 金、同角転、
- 34 角転、18 金、17 香、同金転
- 16 金、同角転、43 角生転、18 金

17 香、同金転、16 金、同角転
43 角成、16 桂、33 馬、同銀転
24 銀生迄33手。

【Andernach】玉以外の駒は、駒取りを行つと、その場で相手の駒となる。「転」で表記

石堀朝陽―ころころ所属が変わるのがAndernachらしくて楽しい。回避するのは角(馬)の所属転換ということ?

☆駒を取った跡地(43地点)への再訪が本作の狙い。通常は連取りで駒を取つたら、そこにもう用はありません。でもAndernachなら所属転換回避の意味付けで「再訪」が簡単に実現できます。

☆これを強調するため52に偽質駒を置く案も考えましたがやめました。本作の「再訪」は23手目と29手目に43地点に行く一回だけですが、複数回

「再訪」する作にも挑戦したいですね。

真丁―金中合を含む繰り返し楽しい。

藤沢英紀―計14転。解いているうちに目が回ってきた。

☆理屈はともかく、単純に駒の動きを楽しんで貰えれば作者としては満足です。

⑤強欲協力詰 107手
たくぼん

				皇					
		ス		ス					
			科	科	王	皇			
				王	ス				
							皇		
								歩	

持駒 角

- 14 角、25 香、同角、同銀、
- 39 香、37 角、同香、同玉、

- 15 角、26 香、同角、同と引、
- 39 香、38 角、同香、同玉、
- 27 角、29 玉、18 角、同玉、
- 54 角、27 角、同角、同玉、
- 54 角、36 香、同角、同玉、
- 39 香、37 角、同香、同と寄、
- 54 角、45 角、同角、同玉、
- 89 角、56 角、同角、同玉、
- 89 角、67 角、同角、同と、
- 29 角、47 香、同角、同玉、
- 49 香、48 角、同香、同全、
- 29 角、38 角、同角、同玉、
- 56 角、49 玉、67 角、38 玉、
- 56 角、47 角、同角、同玉、
- 69 角、58 角、同角、同全、
- 29 角、38 角、同角、同玉、
- 56 角、28 玉、29 歩、18 玉、
- 45 角、29 玉、56 角、47 と、
- 同角、38 角、同角、同玉、
- 56 角、28 玉、29 歩、18 玉、
- 45 角、29 玉、56 角、47 桂、
- 同角、38 角、同角、同玉、

56角、47角、同角、同玉、

39桂、36玉、54角、45金、

同角、同香、47金迄107手。

【強欲】駒を取る手を優先する

☆不用意な「強欲」の発動を回避する作品。守備陣が強いため、迂闊な手では攻駒がすぐ枯渇します。

駒井信久―馬が取れると分かってやっとな盤面がほぐれてきた。

百手越えの長手数はずが。

☆まずは「角打香合」「香打角合」

で局面を進展させ、29歩と引き換えに18馬を入手します。

これで「角打角合」が手段に加わります。

西村恒雄―盤面の微妙な変化があるのに、合駒を請求できる

箇所があるのが凄い。

☆「角打角合」で玉を45に呼び

出して89角で合駒請求するのが次の狙い。しかし、直接「89

角、67と、同角」とすると「同

全」と取られてしまいます。

ここが最大の難関です。

某氏(無解)―60手以上追うと

ころまで辿り着くも、残念ながら時間切れ。「なんて非協力的な協力詰」というコメントを書きたかった。

☆事前に57成銀を移動できれば

良いのですが、この構図でそれは無理。41手目から「89角、

67角、同角、同」としてお

いて、逆サイドからと金を取る発想の転換が要求されま

す。更に29手目から「39香、37角、同香、同と寄」の4手

を挟む事前準備も必要です。

占魚亭―強欲ルールでもパズル色の強いことができるんですね。

☆持駒に歩が加わった60手目

以降も巧妙な手が続きます。

成銀の58への移動持駒の歩

を使って80手目47との移動

合を可能にする手順、同様の

繰り返して92手目桂合をさ

せる手順、そして金を入手して還元玉の詰上り。最後まで緩みがありません。真T―王手が続くように攻めれば良いので、考えやすく楽しめました。

☆これを考えやすいと言える人は少ないと思いますが、詰将棋を解く喜びを感じさせてくれる作品であることは間違いないと思います。

【総評】

中澤宣幸―複合ルールではなく

て助かりました。

☆今回は前回より解答が増えました。難度だけでなく、ルールの簡素さも解図意欲を増す重要な要素ですね。

〔各題の正・誤・無解者数〕

① 15 0 8 ② 18 1 4 ③ 11 0 12

④ 15 0 8 ⑤ 6 0 17

〔解答成績〕(太字5名当選)

〔全題正解〕駒井信久、真T、

須川卓二、西村恒雄

〔4題〕石堀朝陽、占魚亭、

田中孝海、中澤宣幸、福原徹彦、

藤沢英紀

〔3題〕加賀孝志、はやし、

宮田敦史、山下誠

〔2題〕岩本修、原岡望

〔1題〕鈴木彊、武田静山、

弘光弘、山本強志、和田裕之

〔0題又はコメントのみ〕

市原誠、無番和